

琵琶湖南湖における電気ショックカーポートでのオオクチバス捕獲状況

田口貴史・関慎介（水産課）

1. 目的

平成 27 年度の電気ショックカーポート（以下 EFB）でのオオクチバス（以下、バス）捕獲状況を過年度の結果と比較し、駆除効果を把握する。

2. 方法

平成 27 年度の EFB によるバス駆除は例年と同じ区間¹⁾で平成 27 年 4 月 17 日～6 月 30 日、同年 10 月 20 日～11 月 19 日、平成 28 年 2 月 25 日～3 月 30 日の 3 期に分けて行われた。各時期において、捕獲魚の一部をサンプルとして、標準体長（以下、体長）と体重を測定し、胃内容を調査した。また、捕獲データから駆除時期別の単位時間あたりの捕獲重量（重量 CPUE：kg/EFB 操業時間）を算出した。得られた結果を過年度の結果と比較した。

3. 結果

年度別、駆除時期別のバス捕獲重量 CPUE を図 1 に示す。平成 27 年度 4、5 月の重量 CPUE は、57.1 kg/時間で前年度比 63.9%と半分近くまで低下した。6 月以降の重量 CPUE は、2、3 月を除いては過去最低値となったものの、前年度比 74.5%（6、7 月）、80.1%（10、11 月）と減少幅が小さかった。

捕獲魚の体長組成を図 2 に示す。昨年度の結果¹⁾に続いて、本年度も親魚（体長 23 cm 以上）²⁾となる大型のバスの頻度が低下した。

これらの結果から、平成 25 年度からの EFB による産卵期集中駆除により、バス親魚を効果的に捕獲できたと考えられた。一方で、6 月以降の捕獲魚では 1 歳魚と考えられる体長 10 cm 前後の個体が多数捕獲されていること、6 月以降の重量 CPUE が前年と比べてそれほど低下していないことから、小型のバスの生息

量が増加している可能性がある。このことから、今後も捕獲状況のモニタリングを継続し、駆除によるバス生息状況の変化に注意する必要がある。

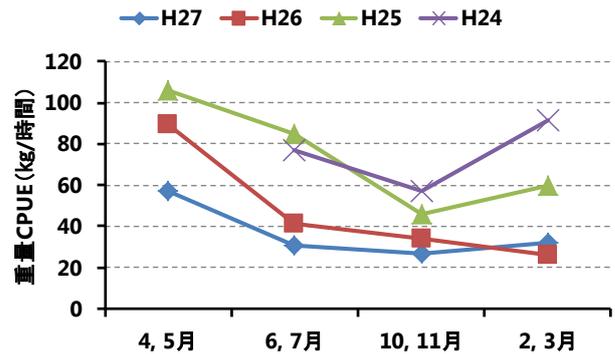


図 1 年度別、時期別の捕獲オオクチバスの重量 CPUE の推移

* 平成 24 年度は 6 月から駆除を実施

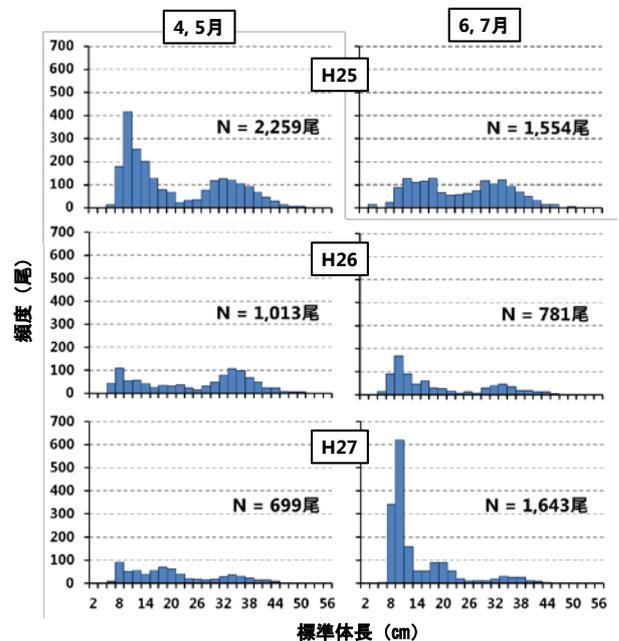


図 2 年度別、時期別の捕獲オオクチバスの体長組成